

18. 新大陸の先住民

新大陸を発見したのは誰か？答えは簡単で考える必要ありません。新大陸先住民に決まっています。後から上陸してきた人達が新発見とか、所有権の主張とか、とんでもない横暴です。

先住民は北辺に住む先住民はエスキモー、アメリカ大陸はインディアン、中、南アメリカはインデオと呼ばれております。この呼称の違いは人種の違いではなく、インディアンは英語読み、インデオはスペイン語読みの違いです。

コロンブスが新大陸に上陸した時、インドの一部だと信じた故にそこに住む人達をインド人だと誤解し、インディアンと報告書にも記載したのです。当時ヨーロッパの人達は既知のジパングとカタイを除き、東方世界をインデアと称していたのです。インドという特定の国も無かったのですからインディアンはインド人と特定するのではなくアジア人と解釈すべきでしょう。

コロンブスが上陸した頃は推定ですが、南北アメリカ大陸全土で約 9000 万位の先住民が暮らしていただろうとしています。人類学的な分類はモンゴロイド系列にある古モンゴロイドで我々と同じ分類になり、血の繋がりがあるかも知れません。其の証拠をいいますと、インディアンには「蒙古斑」があるのです。蒙古斑とは、先天的に発生する幼児の主に仙椎の部分に皮膚にできる薄青い母斑で、3~5歳になると自然に消えてしまいます。

この蒙古斑はモンゴル人、日本人、中国人、韓国人、インドネシア人等東アジア系に多いのですが、その他の人種には無いのです。遠く離れて全く繋がりが無いと思われる新大陸に住むインディアンに蒙古斑があるのですから我々と繋がりが有るのは確かです。私も若い頃モンタナ州のある街で一人でレストランに入ったら白人のウェイターにインディアンは「入るな」とつまみ出された経験がありますが、インディアンと我々はよく似ており親しみを感じ、何故か連帯感までありました。西部劇に登場するインディアンと我々とは全く似てないとおっしゃるかもしれませんが、あれは悪を強調するメーキャップをしているせいです。弱い白人の群、襲いかかるどう猛なインディアン、突如現れる正義の味方第七騎兵隊というのがパターンの白人資本のハリウッド映画です。

未熟なことを「ケツが青い」と言う表現の語源は蒙古斑です。

モンゴロイドがいつ頃新大陸に行ったのでしょうか。推定では 1 万 5000 年~1 万 4000 年前第四氷河期の海退期アジアの新人（ホモ・サビエンス）がベーリング海峡が陸続きで渡ることができたので新大陸の全土に広がったといわれています。

アラスカ・カナダの北辺は東北アジア系、アメリカ・中、南アメリカは東南アジア系です。しかし現在ではコーカソイド、ネグロドとの混血が進んでいます。

ではこの先住民の祖先は何処から来たのでしょうか。1 万 4.5 千年前に移住してきたので

すから、中央アジアを拠点にそれぞれの地に移動していったのでしょう。

私の学生時代は人類の発生の地は中央アジアだと習いました。しかし現在の学説はアフリカ東部の高原地帯だとしています。

人類は 1 千万～5 百万年前、類人猿の仲間から別れ猿人に進化するのですが、其のきっかけを創ったのがアフリカ大陸が分裂して大地溝帯ができあがったが故に進化が始まったのだという説です。

1 千 5 百万年前のアフリカは大陸全土が鬱蒼とした熱帯雨林に覆われ、多くの動物が生存し、その中には何種類かの類人猿が生存していたのです。

かつてアフリカはアラビア半島と地続きでしたが、分裂が始まり、この間に紅海ができたのが 1500 万年前、現在海賊が暴れまわっているソマリア沖とはアデン湾のことでスエズ運河を航行する船は必ずこの海域を航行しなければなりません。紅海とアデン湾の間にはバベルマンデブ海峡という直角になった狭い海峡があり、凄い潮が流れていて内海でも大波ができ船乗り泣かせの難所です。そしてアデン湾では海賊が待ちかまえているのですから世界一の難所です。この海峡のアフリカ側に四国程の大きさのジブチ共和国があります。ごつごつした岩だらけの砂漠の国ですが、海岸線からいきなり平坦な陸地が盛り上がり火山が噴出したり、地震が起きたり、地球の躍動がそのまま感じ取れるような地域ですが、アフリカ東西大分裂が南西に延びモザンビークに至るアフリカ大地溝帯がここから始まるのです。現在でももの凄い断層が続き、トゥルカナ湖、アルバート湖、タンガニーカ湖、マラウイ湖等は地溝帯の一部に水が貯まってできた大きな湖で、この地溝帯は約 2000km あり、現在でも大陸分裂運動は進行中であり、数千万年後はこの地溝帯は紅海のように海になります。

アフリカ大陸が東西に分裂すると自然環境も大変動をおこし、西側は熱帯雨林であり、餌も豊富、東側は大地が隆起し高原地帯になり、雨量も少なく、やがて草原になってしまうのです。そうすると餌も少なく動物の生存競争は過酷となり、弱いのは自然淘汰で消えていく運命でした。類人類も例外ではなく、弱肉強食、生き延びるためには更に力と知恵が必要となり、特殊な才能のある類人猿が更に進化を始めるのです。

1974 年 11 月 30 日エチオピア北東部アフール地方ハダール村付近で約 350 万年前の小柄な化石人骨アウストラロピテクス(南の猿の意)の一体分の大腿骨、膝関節等全体像の約 40% が発掘され、20 世紀最大の発見と賞賛されたのです。画期的なことはこれらの骨を組み立て、二足歩行であることが証明され、手が独立した働きをすることが重要なことで、最古の猿人であることが判明、これが人類への進化の第一歩なのです。日光猿軍団も二足歩行しますが強制された名演技ですから対象外です。

この貴重な化石人骨はいろいろ調査され、骨の分析により 350 万年前の 14 歳の乙女と判明しました。

早速、ミス・ルーシー と名付けられたのです。その由来は発掘の時、非番の調査員のテ

ントからビートルズのヒット曲、「ルーシ・イン・ザ・スカイ・ウィズ・ダイヤモンド」のテープレコーダーのメロデーが繰り返し流れていたことです。

その後この付近から更に猿人の化石が見付かり、これを新たに「アファール猿人」との学名が付けられ、この辺が猿人の故郷ではないかと考えられるのです。

猿人から原人、旧人、新人と進化していくのですが、これは脳の容積が増えてきたことによる分類ですが、20万年前の旧人ネアンデルタール人は新人と同じくらいの脳容積があったようです。

このアフリカ単一起源説は学説として確立しており、地球上の全ての人種はホモ・サピエンス・サピエルスとして世界各地に広がっていったのは15万年～10万年前と考えられます。

では起源が同じなのに何故人種が違うんだという疑問が起きますが、それぞれの環境による変化でしょうか。18世紀に入ってドイツ人の医師で人類学者のブルーメバッハはコーカソイド（白）、モンゴロイド（黄）、ネグロイド（黒）、オースロイド（褐色）に分類、コーカソイドの名はコーカサス山脈の直ぐ南にアララト山があって、旧約聖書の「ノアの箱船」によって人間社会の営みはここから始まるとしたことに由来するもので、他の人類と違うのはヨーロッパに住む人類は白人で、旧約聖書にある白は 光、黒は 闇 として、また白は善、黒は悪というとんでもない説を唱え、コーカソイドは知能、能力、体力等全てに優れているとし、これが植民地主義と相乗して白人優越時代を築いていったのです。

後にはヒトラーのようにアーリア人種こそが世界を支配するにふさわしいのだとして民族浄化、血の純血を叫び、組織的に大量殺人の蛮行に及んだ狂信者がいるのですから人間の愚かさには際限がありません。

人種差別や蔑視をなくす動きは、運動のさなか犠牲になったキング牧師のように長年の努力が少しずつ浸透し、またオリンピックをはじめとして各種の大会で有色人種の活躍、アジアの経済的躍進等、更に画期的なことは米国に黒人大統領が誕生したことによって少しは改善の方向にあるのですが、まだ端緒に付いたばかりといえます。